

令和6年度大阪府立高槻支援学校第3回学校運営協議会記録

令和7(2025)年1月28日(火) 10:00~11:30

於 図書室

出席者

<委員> 閑喜美史(会長)、鳥山茂(副会長)、三澤恵美、重永晃太郎、成瀬修、田中健文

<学校> 赤木校長

<事務局> 寺浦事務長、大井教頭、加藤教頭、東郷首席、岡田首席、中野秀人首席、奥平首席  
田中良平進路指導部長

傍聴者 なし

- 1 校長あいさつ
- 2 事務局からの報告事項
  - ① 保護者からの意見書について
  - ② 高等部3年生の進路希望状況について
  - ③ 令和6年度学校教育自己診断の結果及び分析について
  - ④ 令和6年度学校経営計画の達成状況について
  - ⑤ 令和7年度学校経営計画(案)について
- 3 質疑応答、協議
- 4 校長あいさつ

\*上記のとおり、報告等を行い、各委員から次のような質問及び意見等をいただいた。

(カッコ内は事務局等からの回答)

- ・保護者からの意見書について  
(提出なし)
- ・高等部3年生の進路指導に関して、事業所等への進路決定に加えて、計画相談支援につなげようとしている指導の在り方を評価する。高等部卒業のタイミングで学校から働きかけて福祉サービスへつないでいこうとする姿勢を今後もお願いしたい。
- ・学校教育自己診断の結果と分析において「教員は個別の教育支援計画や個別の指導計画の意義や内容について保護者に説明している。また、それらは本人・保護者のニーズを踏まえて作成されている」の質問項目への肯定的な回答が95%となっている。これはニーズや希望が取り入れられているという満足感と、計画どおりに指導が進められ成果となっているという保護者の満足感からきている、と推測する。次年度も継続的に取組を進めていただきたい。
- ・学校教育自己診断について、今年度は診断項目の精選を行ったと聞いた。問い方を工夫している印象があるが、今年度の結果と分析から質問項目の用語や文章を検討課題に挙げている姿勢を評価したい。

- ・学校教育自己診断について「わからない」という回答の多い質問項目の課題について説明があったが、保護者としては質問されていることに関して、学校の様子を知らないのに回答してよいのか、という思いから「わからない」を選んでいる側面があるのではないかと。次年度実施の際に参考にさせていただきたい。
- ・学校教育自己診断における進路指導に関する結果では、小、中学部の保護者の「わからない」という割合が高くなっているとの説明があったが、「卒業後の行き先をみつける」ではなく「小、中学部での学習で身に付けたものが、子どもたちの未来を切り拓く原動力になる」のように伝えれば、保護者も考えやすいのではないかと。

(「各学年段階に応じたキャリア教育が進められているか」等の表現の変更を検討する)

(OJT や ICT 活用推進の用語についても次年度検討する)

- ・学校教育自己診断の結果を本校の教育活動の改善に役立てようという学校の意図を感じた。さらに結果と分析の広報を推進し、自己診断の実施により学校全体の教育活動が改善され子どもに還元されていると保護者が実感できるよう、取組を進めていただきたい。
- ・学校教育自己診断は保護者対象に行われているとのこと、児童生徒に対しては府の意識調査を実施するとの説明があったが、子どもたちが低学年からアンケート等を活用し自己の意見を表明していく機会を得ることは大変意義のあることだと考える。福祉関係では成人の行動障がいへの対応について課題となっているが、障がいのある子どもがみずからの思いを表明していくことも行動障がいへの対応の一つと考えるので取組を進めていただきたい。
- ・令和6年度の学校経営計画の達成状況について、おおむね良好であることがわかった。校務ソフトウェアの更新等に関しては、システム変更時はたいへんだが、将来的に「働き方改革」につながると考えるので、教職員へ啓発していただきたい。
- ・令和7年度の学校経営計画において、知的障がい支援学校の専門性を向上するため「ウェルビーイングの向上」をテーマに、研修や授業づくりを進めるとあるが、具体的にはどのようなイメージで、だれのウェルビーイングなのか。

(これから具体を研究部を中心に作りあげていく。まず子どものウェルビーイングを考えたい。)

- ・企業や事業所関係者が障がい者の採用等を進めたいと相談をうけることがあるので、その時は進路指導部と連携させていただきたい。
- ・令和7年度の秋ごろ、進路選択事業の内容が改正される予定なので、福祉サービスに関する情報を今後も的確に取り入れ、保護者等へ発信していただきたい。
- ・経営計画において「魅力ある授業づくり」の取組を推進している。授業を「魅力ある」ものにしていくことは学校が取り組むべき課題の根幹と考えるので、次年度も進めていただきたい。
- ・保護者は、本校に対して個別のケースに丁寧に対応してもらっていると考えていたり、安心感をもっていたりすると聞いている。次年度もこれらの思いを保護者がもてるように、学校経営、学校運営を継続していただきたい。保護者も協力をしたいとの思いがあるかもしれないので、学校からのアピールも必要と考える。よろしくご対応いただきたい。
- ・以上、令和6年度及び令和7年度の学校経営計画を承認する。